

保護者のための就職・進学支援
ハンドブック

茨城工業高等専門学校
教務主事

2012. 8. 30

A. 茨城高専における就職進学支援

本校では、社会で活躍できる資質と能力を備え、高い職業観と意欲を有する人材を育成するために、下記の就職進学支援を学生に行っています。

1. 就職進学資料コーナーの設置

本校第2教室棟1Fに、「就職進学資料コーナー」という、就職進学関係の資料をまとめて配置した場所を設けています。就職進学資料コーナーには、求人票および参考資料等が常設されています。また、大学から送られてきた編入学の情報が示されており、学生が自由に利用できます。

大学院等の募集など専攻科生を対象としたものについては、専攻科棟1Fロビーに就職進学資料コーナーを設けています。

2. 講演会等の実施

11月頃に、自己分析、企業の選定およびエントリーシートの書き方等の就職活動に関する講話、3月に履歴書、面接対策、マナー等に関する講演会を実施します。これらの講演会では、外部の専門家を招聘して行っています。

また、民間技術者等を講師に招き、ものづくりの経験から「ものづくり失敗塾」等の講演を実施しています。

3. 講義および研修旅行等の実施

産業社会学(集中講義)、国語表現法の授業において、社会人としてのルールやコミュニケーション能力向上など実社会に必要な内容を修得させています。

本科においては、グローバル工学基礎(専門の授業を英語で実施)を導入することにより、また、専攻科においては、特別研究の成果の一部または全部を英語で発表してすることにより、英語によるコミュニケーション能力を強化しています。

1学年から3学年まで日帰りの研修旅行を実施しています。さらに、4学年の秋には複数の遠隔地の企業見学も実施しており、職業意識を涵養しています。今後の進むべき方向を考える機会としています。

4. インターンシップ等の実施

1週間の企業、大学等におけるインターンシップを実施しており、学生に職場経験をさせることで職業意識を涵養しています。なお、専攻科生については3週間の実務研修(インターンシップ)を必ず実施することになっています。

5. ポートフォリオ等の記入

3学年修了時から、年度初めにポートフォリオ(学習記録)に学習と課外活動等の目標を記入してもらっています。また、年度終わりにはポートフォリオに記載の目標に対する達成度の自己評価を学生に記入してもらっています。このポートフォリオには担任によるアドバイスの記入も行っています。これによって、就職活動時のエントリーシート等に記載する事項の整理をあらかじめ行ってもらっています。

6. 進路指導専門部会による支援

就職希望者の心得、大学編入学等試験志願者の心得を学生に配布し、希望する進路が得られるようにサポートしています。また、4、5学年の担任が就職・進学についての情報を交換することにより、学生の進路指導を円滑にしています。

B. 進路決定までの流れ

多くの学生は、下記のスケジュールで就職進学活動を行います。なお、個々の企業、公務員、大学等で活動時期が異なっていますので、計画的な取り組みが必要です。

取り組みの主体は学生ですが、学生に聞いて分からない点はクラス担任あるいは学生課に問い合わせてください。

表1 進路決定の流れ

月	8, 9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10~3	
企業等志望者	自己分析														
	試験対策														
	インターンシップ	業界、企業研究													
		志望企業の絞りこみ													
	説明会、セミナーへの参加														
	会社訪問														
	履歴書等の作成提出														
	Webテスト、テストセンター試験														
	面接試験														
	内々定														
内定															
公務員志望者	自己分析														
	試験対策														
	インターンシップ	職種、組織研究													
		志望組織の絞りこみ													
	説明会、セミナーへの参加														
	応募書類取り寄せ														
	願書提出														
	一次試験														
	2次試験														
	合格発表														
進学志望者	自己分析														
	試験対策														
	インターンシップ	大学、学科の研究													
		志望大学の絞りこみ													
	説明会、オープンキャンパスへの参加														
	応募書類取り寄せ														
	願書提出														
	推薦試験														
	学力試験														
	合格発表														
高専の支援	保護者との面談														
	セミナー														
	研修旅行														
	求人票掲示(企業)、編入学、大学院情報掲示														
	過去の就職・進学試験報告書閲覧														
成績証明等の開始、学校推薦															

C. 保護者の方へのお願い

本校では、担任を中心に、学生ひとりひとりが満足できる進路を実現するため、ガイダンスやセミナーを開催しています。

進路を決める場合の相談相手は保護者としている学生が多くいるとの調査もあり、学生を保護者、高専がサポートすることが重要になっています。

高専として学生の進路に対して、担任を中心に最大限の支援を行いますが、保護者の方にも下記のポイントをご理解いただき、サポートをお願いできればと考えます。なお、就職を主に示しますが、進学についても同様に接していただければ幸いです。

1. 現在の就職活動を理解してください。

保護者の方が就職活動をした時代と比べて、現在の就職活動では、時期や選考方法が全く異なります。

- (1) 履歴書に代わってエントリーシートを Web から送ることもある。
- (2) 筆記試験は PC で行う Web テストあるいは試験専門の会場において PC で行うテストセンター試験にほとんど変わっている。
- (3) 面接は、個人面接だけでなく、グループ面接、その場で発表資料を作成してプレゼンテーションを行うこともある。
- (4) 12月から企業の求人が公開され、会社説明会への参加、志望会社へのエントリー、筆記試験を行って、4月から面接が始まります。

このように、皆様にとって経験したことのない選考試験が実施されています。

また、インターネット関連企業が成長を遂げるなど、好調な企業が変わってきています。保護者の方には、企業と就職活動に関する正しい知識を持ち、これらの変化を理解したうえでお子様と向き合ってください。現在の就職活動は長期間に及びます。そのため、うまくいかない場合には、落ち込んでしまう学生も見られます。そんな時こそ保護者の方のサポートが重要になります。

2. 就職活動には少し活動費用が必要です。

学生の就職活動費用は交通費等で大学生の平均が約 10 万円と言われています。ひとつの会社を受験するだけでも、会社説明会への参加、会社訪問、試験会場への移動、面接試験と何回も往復する必要があります。

業種、職種、希望する会社の所在地によって費用は大きく異なりますが、保護者の方で就職活動費用を準備していただけると、学生の方は就職活動や勉学に励めると考えます。

3. 学生の意見や考えをよく聞いて、学生の主体的行動に任せてください。

保護者からの不用意な一言によってお子様がやる気をなくしている場合もありますので、お子様の意見や考えを聞くという立場で接していただければと考えます。具体的には、下記の点に注意してください。

(1) 適切なアドバイスをしてください。

安定を優先する保護者と、仕事のおもしろさを考えるお子様では、企業を選ぶ際の判断基準が違ってきます。過去の古い価値観を押し付けず、新しい情報を仕入れたうえで、お子様に適切なアドバイスを行ってください。

(2) 学生の主体的行動に任せてください。

就職活動は社会人になるための準備ともいえます。保護者の皆様にとっても、お子様がやるべきことは自分でさせるという、子離れの準備期間と考えてください。なお、お子様を観察して、困っている時には手を貸してください。

(3) 学生の就職活動に関心を示してください。

現在、新卒者採用は縮小傾向にあり、採用も厳選採用で買い手市場です。そのため、大学生においては就職活動中に悩むことも多く、ひどい場合には就職活動を止めてしまう学生もいると言われています。つねに「学生の就職活動に関心があり、相談に乗る」という姿勢を見せてください。実際に相談に乗らなくても、相談できる保護者がいると言うだけで、学生の気持ちが楽になっています。

4. 学生の自己分析へのサポートをしてください。

企業への志望者がエントリーシートでも面接でも必ず聞かれる質問は「自己PR」と「学生生活で頑張ったこと」「志望動機」「将来の抱負」です。これらの質問に答えるためには、「自分はどんな人物であるか」「どんな仕事があっているか」を知らなくてはなりません。そのために自己分析が必要になります。

自己分析という言葉から、学生一人で分析しがちです。自分で分析することはもちろんですが、どうしても短所ばかりが目についてしまいがちです。お子様たちの話を聞きながら、長所や仕事で行かせる能力を見つける手伝いをしてください。

仕事には正解がなく、働くことには責任が伴います。仕事にどんな能力が必要であるかを説明し、お子様の長所はどんな仕事に結び付くかをアドバイスしてあげてください。

各会社には社風というものがあります。お子様の性格と会社の社風が合いませんと長続きしません。そのため、会社説明会、会社訪問、さらにはOB訪問などに行くようにアドバイスして、学生に合う会社が見極めさせてください。

最後に、保護者の方の考えを押し付けしないでください。あくまでも、お子様の長所、性格にあった仕事選びをサポートしているとの考えで行動してください。

5. 筆記試験への準備をするようにアドバイスをしてください。

最近では1次試験を、インターネット上のWebテスト、あるいはテストセンターにおいて、試験専門業者のテストを受けることとなります。一番多く使われているものは、SPI2系の能力適性検査です。いわゆる「読み書きそろばん」の能力を調べるもので、言語系の問題は、30分で約40問、非言語系の問題は40分で約30問が出題され、素早く回答する能力が要求されています。これらの試験では、間違えると簡単な問題に、正解を続ければ難しい問題に変わります。すなわち、受験者がすべて同じ問題ではなく、試験の中で評価が行われています。問題集を解いて、テストに慣れておくことが重要なことをアドバイスしていただければ幸いです。

6. 学生の面接へのアドバイスをしてください。

採用選考の際には、高専での成績もちろん重要ですが、企業へ入ってからのことを考えて、コミュニケーション能力を重視するところが多くなっています。また、日本経済団体連合会の調査でも、選考にあたって重視した点として、(1)コミュニケーション能力、(2)主体性、(3)チャレンジ精神、(4)協調性となっています。学生が迷いなく力を発揮できるようにサポートしてください。¹⁾

具体的には、多少照れくさいですが、模擬面接をお子様と一緒に行ってください。高専でも、担任だけでなく企業経験の教員との面接を行うこともあります。模擬面接を多く行っていただくと学生自身で回答の不備に気がきます。

面接の質問は、「もっと具体的に」「なぜそうなのか」「なぜそう考えたのか」と、学生が示した話題に対して質問を投げかけて、学生の行動を理解分析し、会社に入社した後の行動を予想し、会社の社風に合うかの判断をするためです。面接に特別な経験談は必要なく、何を目的に、どんな経験をして、そこで何を得て、それを今後社会の中でど

のように生かしていくかを、論理的に話せばよいのです。自分の経験を誇大に表現した小さなウソでも、上記の質問をうけて破綻すると、すべてが水の泡となります。そのため、模擬面接になります。

参考文献

- 1) 一般社団法人 日本経済団体連合会「新卒採用(平成 24 年 3 月卒業者)に関するアンケート調査結果」http://www.keidanren.or.jp/policy/2012/058_kekka.pdf